

山口県萩市松下村塾のトイレ

清水 洽

平成24年10月9日撮影

日本の夜明け、尊王攘夷の思想の元に明治維新を担った人たちが使った日本の典型的な農家のトイレです。米国への蜜航に失敗し、萩の野山獄に投じられた吉田松陰が教鞭をとった松下村塾で、久坂玄瑞、高杉晋作、前原一誠、木戸孝充、伊藤博文達も使ったはずのトイレです。



日本の典型的な便所で小便と大便とは別々になっています。当然、汚物は農家に還元されていたでしょう。



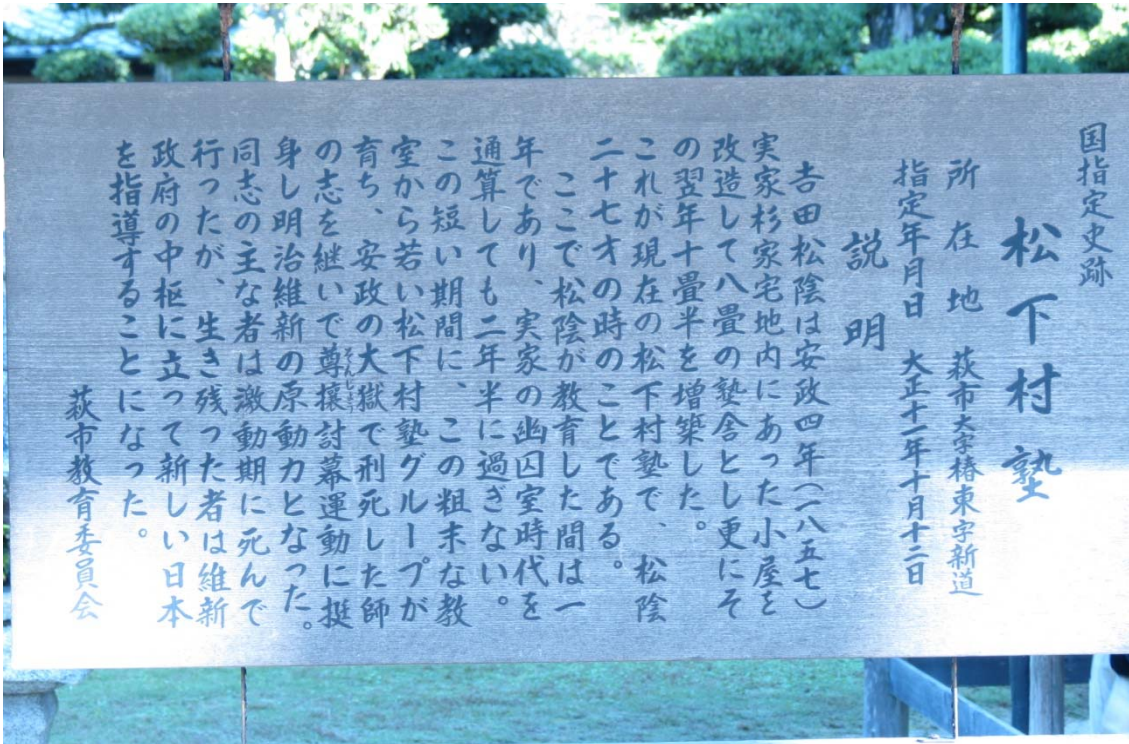
厩は馬が家族のため同じ屋根の棟でしたが、トイレは別棟なのが日本の常識のようです。



松下村塾の小屋です。右にあるのが増築した10畳半の講義室でしょう



最初に小屋を改造した八畳の塾舎



国指定史跡

松下村塾

所在地 萩市大字椿東宇新道

指定年月日 大正十年十月十二日

説明

吉田松陰は安政四年（一八五七）
実家杉家宅地内にあった小屋を
改造して八畳の塾舎とし更にそ
の翌年十畳半を増築した。
これが現在の松下村塾で、松陰
二十七才の時のことである。
ここで松陰が教育した間は一
年であり、実家の幽囚室時代を
通算しても二年半に過ぎない。
この短い期間に、この粗末な教
室から若い松下村塾グループが
育ち、安政の大獄で刑死した師
の志を継いで尊攘討幕運動に挺
身し明治維新の原動力となった。
同志の主な者は激動期に死んで
行ったが、生き残った者は維新
政府の中樞に立って新しい日本
を指導することになった。

萩市教育委員会

松下村塾の前にある案内板です。